

# エイキット株式会社

自動車部品評価で積み上げた技術と機器設備を武器に、ライフサイエンス分野に挑戦する第二創業型のベンチャー企業「エイキット株式会社」新規部門責任者の野原部長にお話を伺いました。

## 自動車部品評価のノウハウを活かし 医薬・食品分野に展開する 異例の第二創業型ベンチャー



野原 和政 部長

### 会社概要

**入居BI** D-egg(同志社大学連携型起業家育成施設)

**代表取締役** 野原 和夫  
(ライフサイエンス部門事業部長 野原 和政)

**所在地** 本社: 岐阜県大垣市内原1-56  
京都事業所: 京都府京田辺市興戸地藏谷1  
同志社大学京田辺キャンパス  
D-egg

**事業概要** 開発品の信頼性を評価する技術サービス

**URL** <http://www.a-kit.co.jp/>

- 1999年 6月 ■ エイキット株式会社設立
- 2004年 6月 ■ 名古屋事業所開設
- 2008年 6月 ■ グループ会社合併
- 2011年 1月 ■ 豊田営業所開設
- 2011年 4月 ■ 同志社大学と糖化について共同研究を開始
- 2012年 4月 ■ 大阪事業所開設(営業所から拡大)
- 2013年 4月 ■ D-eggに入居(生命医科学検査センターを開設)
- 7月 ■ 神奈川事業所開設
- 2014年 7月 ■ 「第9回 けいひんなビジネスメッセ」出展
- 10月 ■ 「BioJapan2014」中小機構ブース出展

### 起業、会社のおいたち

#### — 起業の動機はなんでしたか？

もとは自動車部品製造の会社で、品質保証部門を1999年に分社化して、外部のお客様の評価業務も請け負う事業をスタートさせました。高価な評価機器は、稼働率が低いため、空き時間を有効に利用しようと考えたのがきっかけです。自動車部品製造で培った評価技術は大きく分けて、図面寸法評価や形状測定 of “計測”、強度や耐久性を確認する“試験”、表面・断面観察や不具合解析の“分析”です。これらの評価業務で、自動車部品メーカー様だけではなく、今では様々な業界のお客様からご依頼がいただけるようになりました。当初は2,3名でスタートしましたが、今では100名体制まで拡大しました。

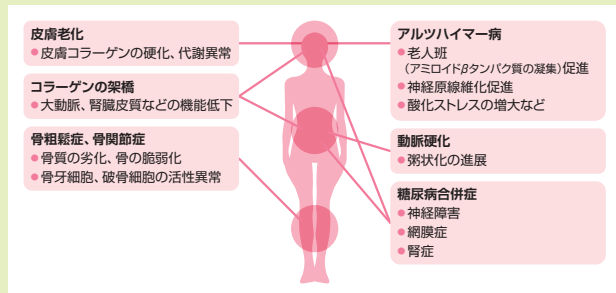
#### — 工業分野からライフサイエンス分野に進出された きっかけはなんでしたか？

社長は以前から工業分野だけではなく、ライフサイエンス分野に非常に興味を持っていました。そんな中、注目をあびるアンチエイジング分野において“糖化”という概念に出会うことになり、知人から糖化の第一人者である同志社大学の教授陣を紹介いただき、大学との連携開発が2011年にスタートしました。

### 製品紹介

### 抗糖化評価サービス

老化や成人病と関与が高い“糖化”について、アンチエイジングの視点から注目の集まる“抗糖化”に関連する商品。この機能評価を医薬品メーカー、機能性食品開発メーカー等からの依頼を受け、in vitro試験からヒト試験まで幅広く対応している。



## 事業の展開と現在

### 「糖化」をはじめライフサイエンス分野での

#### 受託サービスはどのように展開されていますか？

当社が着目した「糖化」とは、アンチエイジングの分野において「酸化」と同様に体の老化や異常に作用する現象です。砂糖に火を通すとカラメルのように黒く変色し、こげつきます。これと同じ現象が体内で起こると、皮膚の老化、アルツハイマー、動脈硬化などの様々な症状の原因になると考えられています。アンチエイジング分野において、この糖化を抑制する「抗糖化」を訴求した素材は、ここ数年で10倍ちかく増加しており非常に注目度の高いキーワードになっています。当社は、抗糖化の評価をin vitro試験からヒト試験まで、幅広くサービスを提供しています。

2011年に同志社大学生命医科学研究科に寄付講座として「糖化ストレス研究センター」を開設し、糖化の評価サービスを開始し、ライフサイエンス分野で営業展開したところ、糖化以外の様々な問合せをいただきました。そこから工業系の受託サービスと同様に、多角的な評価のニーズが高いことに気付きました。今では、そのようなニーズに対応できるように社内および社外の体制を急ピッチで整えています。マーケティングのスタイルで、必要とされる技術を社内に蓄積し、そして受託サービスにつなげる仕組み作りです。それには、マーケティング力の強化は必須で、市場が何を求め、そして何を提供できるかを考えることが重要だと考えています。



D-egg内のラボの様子

### 工業系とライフサイエンス系では全く分野が異なると思いますが、ご苦労した点はありましたか？

経験者を中途採用しましたが、やはり工業系の受託サービスに対応していた社員ばかりですので、ライフサイエンス分野の業界に慣れるまでに2年ほど時間を要しました。業界の考え方や求められるものの違いに戸惑いましたが、「お困りごと」を解決することは、工業系の受託サービスでも同様です。採算度外視でお受けすることは厭わず、そこでの実績から積み上げた対応力こそが次の提案力につながると考えています。製造下請では、儲ける仕組みは社内にあるとして、プロセス改善等してお客様に低価格で高品質なものを提供することが常です。ライフサイエンス分野であっても同じで、努力も無しに当社の希望価格を押し付けるのではなく、請け負う作業を適正な価格で提供し、社内の生産性を向上させることにより利益を生み出すという精神をスタッフで共有し取り組んでいます。現在は工業分野の売上の10%程度ですが、この比率を50%までにしていきたいと考えています。

## そして、これから

### 今後の展望について、

#### どのようなことに取り組みたいとお考えですか？

今後の展望は、ライフサイエンス分野において、研究開発者様の「情報のハブ」になれるような事業にしたいと思えます。受託サービスを拡大していくと、社内の技術レベルが高くなることと多数の協力機関と連携する機会が増えてきます。そのような技術の情報およびネットワークを広げて、お客様に提案できることで、この業界において必要とされる企業になれるのではと考えています。

## インキュベーションの利用

### ◆入居のきっかけ

2011年に同志社大学の寄付講座を開設して糖化評価のサービスの事業化を進める中で、同キャンパス内に立地するD-eggに、研究開発と事業化の拠点を持つことで、バイオ系のサービス開始を目指した。

### ◆入居しての変化

抗糖化の評価サービスを始め、生命医科学分野の評価サービスを提供できるようになった。入居当初3名だった新事業部門は、現在は11名体制となり、年500件の受注を受けるまでになった。

### ◆入居してよかったこと、将来の入居者へのメッセージ

新しいサービスを常に開発するために顧客のニーズを聞く機会は重要で、IM室にはバイオ関連展示会の出展サポート等、販路開拓やマーケティングの機会を提供してもらっている。BI施設にいと、交流会や勉強会などスタッフが孤立せず様々な情報や機会に触れることができ心の支えになっている。

D-egg(同志社大学連携型起業家育成施設)  
チーフIM 上村 隆雄

from IM

← 同社は、新事業としてD-egg内で同志社大学との産学連携による糖化ストレスを中心とした新たなアンチエイジング研究により、食品・化粧品・素材に関する機能性評価試験の開発及び受託サービスを行っています。同事業は今年が勝負の年と考えていて、今後、大きな飛躍を期待できます。IM室でも更なる成長への支援をさせていただきます。



## D-egg(同志社大学連携型起業家育成施設)

D-eggは、「業成館」と称して同志社大学京田辺キャンパス内に立地しています。中小機構・同志社大学・京田辺市から派遣されている常駐のIMが中心となり、京都府等とも連携しながら、入居および地域企業の支援にあたります。D-eggカフェなど入居企業や地域企業の交流イベントも開催し、ビジネス拡大に最適な環境を創造しています。



〒610-0332 京都府京田辺市興戸地藏谷1  
同志社大学京田辺キャンパス業成館  
Tel.0774-68-1378 Fax.0774-68-1372

BI紹介